



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 112

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 112. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1962, 112: 65-72

ISSUE DATE:

1962-01-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186933>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 112

1961.12月(1962.1月31日)

録 事

12月1日 本日より入場料及び団体割引率を改訂する。
新館開館にともない、桧山嘉郎を技術見習として採用する。

12月9日 宮谷慶四郎監事、大嶋昌委員来館され、新館落成式につき打合わせを行う。

12月10日 午前10時より新館竣工検査を行う予定のところ、新水槽に水もれがあり、さらに防水作業中に水槽ガラス1枚を破損したため、検査は実施出来なかつた。本日の検査立会者は、京都よりは宮地会長、宮谷監事、大嶋委員、山本和夫教授、実験所よりは、内海委員、時岡委員、山路委員、布施委員、原田研究員、大林組よりは橋本主任、山田設計課長、齋藤省三商店よりは森主任で、全員で現場を視察検討した上、水族館事務室において、今後の計画等につき協議を行った。その結果、大林組の防水作業は15日までに完成、齋藤省三商店のフィルターは20まで、そのあと砂を入れて23日頃までに完成することに決定。尚清掃作業中についたガラスのすり傷はとつて貰うこと、とくに内面の傷は十分にみかきとること等決定。

12月15日 防水作業中水槽ガラス又破損する。このため15日の防水完成は不可能となる。

12月18日 大林組橋本主任より、破損したガラスは日本板ガラスKKより特別に融通をうけ、月末までに完成する予定との申出あり。

12月20日 水族館技術員として採用の荒賀忠一氏は本日より出勤。

12月21日 大浦荘にて本年度忘年会並に原田研究員の送別会、荒賀技術員の歓迎会を開く。

12月26日 京大側委員、監事と打合わせの結果、新館落成式を明年1月12日と決定する。

12月29日 新館竣工検査 京大山本和夫教授、実験所時岡委員、山路委員、布施委

員、大林組橋本主任、山田設計課長、齋藤省三商店森主任参加、新水槽に尚漏水があるけれども、1月12日に落成式が出来る様に施工することに決定する。

業 務 概 況

◎ 12月の入場者数

区 分		大 人		小 人		合 計	
		本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
水族館発売	個人	5,078	89,263	182	6,575	5,260	95,838
	団体	6,449	163,967	—	—	6,449	163,967
交通公社発売		3,525	65,658	—	—	3,525	65,658
明光バス発売		9,362	184,125	124	7,316	9,486	191,441
合 計		24,412	503,013	306	13,891	24,720	516,904
無 料				306		0	1,600

団 体：一般 63組 学生 2組 合計 65組

◎ 12月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	808,374	9,909,189
窓 口 売 上	295,565	4,596,879
交通公社クーポン	83,459	1,089,390
明光バス観光券	429,350	4,222,920
予金・積立金利子	32,536	1,071,363
手 数 料	33,209	488,719
絵はがき 拂下	19,280	366,790
パンフレット 拂下	360	15,420
南極生物報告 拂下	—	4,576
魚 類 拂 下	—	—
雑 收 入	38,370	121,150
諸施設改善積立金より繰入	4,762,900	20,348,163
合 計	5,695,729	32,325,370

明光バス観光券未収分

大人券 12,324枚

◎ 12月の支出

小人券 139枚

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	514,772	1,807,128	
会 議 費	6,545	117,390	
備 品 費	66,362	299,592	インターホン、入ロカウンター等
消 耗 費	86,396	629,968	
事 業 費	84,336	599,914	
維 持 費	55,485	127,030	
其の他諸経費	94,938	964,754	
積 立 金	137,053	1,965,003	
合 計	1,045,867	6,510,779	

実験所経費

費目	金額	累計	備考
研究費	—	53,100	
奨学金	—	90,000	
備品費	1,465	35,759	
消耗費	—	—	
刊行費	—	590.590	
役務費	—	18.520	
合計	1,465	787,969	

博物館経費

費目	金額	累計	備考
人件費	103,970	388,077	
備品費	—	1,000	
消耗費	—	3,000	
役務費	—	—	
合計	103,970	392,077	

臨時費

摘要	金額	累計
水族館増築費	4,670.000	20,170,000
増築諸雑費	92.900	178.163
合計	4,762.900	20,348.163

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	1,045.867	6,510,779
実験所経費	1,465	787,969
博物館経費	103,970	392,077
臨時費	4,762.900	20,348.163
合計	5,914.202	28,038.988

12月末現在高

前月よりの繰越	4,505,555
今月の収入合計	5,695,029
今月の支出合計	5,914,202
現在高	4,286,382

前年度との比較

	1960	1961	増減
入場者数	28,329	24,774	-3,555

水族館記事

- ◎ 先月事本より購入した魚類は、残念ながらその大半が白点病のため死亡。
- ◎ 11日、堺市のトロール船より アカグツ、2 オオアカヒトデ、1 ウチワエビ、9 メダネカラツバ、1 ユシマガニ、1 等を入手した。このうち ウチワエビ は、約1年ぶりの入槽。アカグツは1尾が16日死亡。本種の長期飼育は全国でもほとんど例がなく、残る1尾はまだ餌付きしていないが元気なので、強制給餌を考えている。
- ◎ 20日 潜水器具類の引継ぎ(原田・荒賀)をかね、島島東側で潜水採集を行ったが、不成績(キリンミノ1尾 無脊椎動物若干)に終わった。
- ◎ 21日 揚水ポンプ(5HP)2台の同時運転が可能となり、給水事情がやや好転した。
- ◎ 新水槽用の魚類の蓄養場として、R₁水槽(ウミガメプール横)は南水槽室の排水で飼育する構造上、不適であるから、これは使用せず、給水量が少いことや、屋外のため水温が下りやすいこと等の欠点はあるが、第2水槽室裏の R₂₋₅水槽を使用することし、22日同水槽の大清掃を行う。
- ◎ 富田川下流で淡水産のエビを採集できることがわかり、早速この活エビを与えたところ、従来摂餌しなかつた、アツカサウオの餌付けに成功した。エビに混つてとれる ドロメ、カワアナゴの幼魚も、オコゼ類の餌付けに良い。
- ◎ 先月入槽した モンガラカワハズの白点病は一時かなり重症であつたが、ホルマリン浴1回ののち、給水量を約3倍に増加させてから快方に向つている。28日、飼育槽の観房を始める。
- ◎ クマノミ、ミツボシクロスズメ、ネンソメワケベラ等の熱帯性の小魚は、いぜん元気で、新館の亭上水槽で装いを新たに、おめめえの予定。
- ◎ 28日堺市から、ナスカザメ エビスダイ オキノシマウツボが入槽。
- ◎ 29日堺市漁業組合の日置敬二氏に購入を委託してあつた、新水槽用の魚類と受取りに船を同地へ回航、次の水族が入つた。
イトトウダイ、ニザダイ、ミキアキ、アツカサウオ、ナスカザメ、カスザメ、サカタザメ、ホマチウミヘビ イトフエフキ ネコザメ クロアナゴ ツカアシガニ オオアカヒトデ ケアシガニ ゾーリエビ ウミシダ

- 近大養魚場・堺浦・辻本熱帯魚店（大阪）より購入各1回、自家採集1回を予定。

新館收容水族予定表

(熱帯性淡水魚)				(熱帯性石炭の生物)			
8	7	6	5	4	3	2	1
胎生タカ類	カラシ科の熱帯魚 エニゼルイツシユ	熱帯魚 鯉科	メクラウオ ラスキヤット 10 10	カニナリベラ ニミキベラ 5 2	ボシメウケベラ カニナリベラ 2 2	カエルウオ その他	オトヒメエビ ツノミ 3 ミツボシクロズメ 4 サゴイソギニシヤク

新館入口

イカ類 (イカ類) (温帯魚) (サニブ^{有線}の生物) (熱帯魚) (べラ類)

イソウオ^{イソウオ}類 (イソウオ^{イソウオ}類) (エビ類) (エビ類) (イソウオ^{イソウオ}類)

カサゴ^{カサゴ}類 (カサゴ^{カサゴ}類) (イソウオ^{イソウオ}類) (エビ類) (イソウオ^{イソウオ}類)

コウイカ 10
クロダイ 3
ヘダイ 10
アイゴ 7

イシガキ 1
イシダイ 5
カサゴ 4
ササギ 4
ミナミ 4
ハナミナミ 4

マツカサウオ 20
エビスダイ 1
タカアシガニ 2
ウシエイ 1
アカエイ 3
ツバクロエイ 2
イサキ 30

クロアサギ 3
ナメコ 5
コトヒキ 20

ブリ(ハマチ) 20
カンパチ 10
スギ 1
クエ 3

1
2
3
4
5

A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K

(回游魚)

- ◎ 12月21日現在観覧水槽に飼育中の動物は、総計169種、1,880個体以上で、その種類構成は次の通り

ヒドロ虫類	1種、	カメノデ、フジツボ類	2種、	ヒトデ類	4種、
ウミトサカ類	2種、	エビ類	8種、	クモヒトデ類	2種、
ヤギ類	3種、	ヤドカリ類	4種、	ウニ類	9種、
ウミエラ類	1種、	カニ類	9種、	ナマコ類	6種、
イソギンチャク類	8種、	アメフラシ類	1種、	ホヤ類	1種、
イミサンゴ類	8種、	二枚貝類	4種、		
スナギンチャク類	1種、	巻貝類	11種、	軟骨魚類	2種、
ハナギンチャク類	1種、	イカ類	1種、	硬骨魚類	73種、
多毛類	1種、	タコ類	1種、	カメ類	3種、
カブトガニ類	1種、	ウミシダ類	1種、		

- ◎ 12月の水質および気象は、データー未整理につき来月記載。

来 訪 録

- 12月6日 愛知県蒲郡市役所観光課長大村俊一氏ほか蒲郡市議会議員一行9名は、当水族館施設その他を視察のため来館。
- 12月25日 京都新聞記者三宅敏央氏、全写真部今井繁氏は、当水族館新館を視察のため来館。

昭和37年1月31日 (NO. 112)

編集兼
発行者

山路 勇

発行所

瀬戸湾実験所振興会
和歌山県白浜町
瀬戸湾実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)